

キラリ★卒業生！ No.5 夏休み総集編

佐賀県立高志館高校進路指導部 R3.8.25

3年生はこの夏、猛暑、大雨、コロナ禍にも負けず、職場見学や履歴書、面接対策に励みました。そんな後輩たちの役に立てば…と、多くの卒業生が激励に訪れてくれました。

今回は「夏休み総集編」として、後輩たちにアドバイスをする卒業生の姿をご紹介します。

休みの日や仕事帰りなど、忙しい中かけつけてくれた卒業生の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの前向きな姿から3年生も元気をもらい、進路決定に向けて決意を新たにすることができたようです。

1. コカ・コーラボトラーズジャパンベンディング株式会社勤務 野中 弓響さん (H30.園芸科学科卒)

高校時代は野球部に所属。鍛えた体を武器に、主に自動販売機に清涼飲料水を補充する、オペレーション業務に携わっています。

コロナ禍で外出が減ったことにより、ペットボトル飲料の消費にも影響があるとのこと。季節や自動販売機が設置されている場所によって、どのような商品が好まれるか、本数はどうするかなど、自分で考えて行動することが求められるとアドバイスしてくれました。



2. 協同組合アルタ・ホープグループ勤務 小野 花鈴さん (R2.食品流通科卒)



小野さんは現在、アルタ・ホープ開成店に勤務、主にレジの業務を行っています。小野さんの優しい人柄からか、お客さんから「頑張ってるね」と声をかけられたり、顔を覚えて自分のレジに並んでくれたりするお客さんもいらっしゃるということで、充実した毎日を送っているとのことでした。3年生からは、職場の人間関係に不安を抱く質問が出ました。これに対し、「従業員の方はみんな優しく、私と同じくらいの年齢のお子さんがいらっしゃる方も多く、よく声をかけてくださいますよ。」と答えていました。そして、「レジの接客に必要なのは笑顔、相手を待たせないこと、商品の場所や値段を早く覚えること！」と教えてくれました。

3. 佐賀県農業協同組合本所勤務 田中 早希さん(H29.食品流通科卒)

これまでに何度も、在校生の前で「卒業生からのメッセージ」として講師を務めてくれています。入社4年目となり、重要な業務を任されることも増え、新人の頃とはまた違った苦労もあるようです。業務の幅が広いと、「自分の希望する部署にいけるかどうか心配」という3年生に対して、「まずは目の前の仕事にしっかり取り組むこと。どこの部署、地域に配属されても一生懸命やっていないと、希望すら叶えられない」と激励してくれました。



4. (上) イオン九州株式会社勤務 古賀 大貴さん(H29.食品流通科卒) (下) 株式会社イズミ勤務 久保 秀平さん(同上)



イオンに勤務する古賀さんとゆめタウンに勤務する久保さん。二人は現在、偶然にもそれぞれの会社の鮮魚部門で働いています。今では、大きなマグロまでさばけるようになった二人が、それぞれ自分の会社の魅力について熱く語ってくれました。

今回、特に二人が強調していたのが、福利厚生面の充実と、社員として成長できる会社であるということ。休暇が取りやすく、プライベートが充実していること、自分がさばいた魚が目の前で飛ぶように売れていく爽快感、どうすれば売り場の目標を達成できるのかを考えて、成し遂げたときの喜び(もちろん給与にも反映される!)など、話は尽きず、さながら「会社のいいところ紹介バトル」の様相に。

生き生きと語る姿に、3年生も前向きな気持ちになったようで「お二人が誇りを感じながら働いているということが伝わってきました。働くのは不安だったけど、頑張ろうと思えました。」とコメントしていました。



5. 東京農業大学国際食料情報学部4年 有岡 優太さん(H29.食品流通科卒)

4年制大学を志す3年生のために大学での研究やサークル活動などについて説明してくれた有岡さん。高校時代に3度の海外研修を経験し、農業をもっと広い視点から捉えたいと東京農業大学に進学しました。実家が農家という3年生に対し「家業を持続可能なものにするにはどうしたらいいかを考えて。学んでいく中で、農業にはもっと多くの可能性があることに気づくはず。」とアドバイスをしてくれました。

